



師走の候、保護者の皆様には日頃よりこども園へのご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

今年も残りわずかとなってきましたが、こども園では生活発表会への取り組みの中でそれぞれのクラスで盛り上がりを見せています。新入園児のお子さんにとっては初めての生活発表会となり、進級児のお子さんにとっては学年が上がり、昨年度とはまた違った成長が見られることと思います。志賀学園では、「生活発表会」という行事名で設定しておりますが他園では「お遊戯会」という呼ばれ方もしております。志賀学園で「生活発表会」という行事名にしている理由は、子どもたちが日々の生活（遊び）の中で楽しんでいる活動を保護者の皆さまに見ていただきたいという意味合いからこの行事名になっております。そういった意味合いがあることもご理解いただきながら当日はご覧ください。

今年も衣装チームのお母様方に素敵な衣装を作ってください、リハーサルでは新しい衣装に身を包んだ子どもたちの可愛い姿も見られました。是非、衣装にもご注目いただければと思います。

12月21日は「冬至」になります。「冬至」は1年でもっとも日照時間が短くなる日です。ゆず湯に入る日ということでも有名です。「冬至」は「冬に至る」と書くように冬至の日を境に季節が変化していくことを告げる役割を担っています。また、ゆず湯に入る風習は江戸時代から始まり、ゆずの強い香りで邪気を祓い、運を呼び込む前に体を清めると考えられてきました。また語呂合わせの意味もあり、「冬至」を「湯治」に、「ゆず」を「融通」にかけていると言われていたこと。ゆず以外にも「冬至」に「ん」が付く食べ物を食べると「運」を呼び込めると言われています。これは、「運盛り」と呼ばれる縁起担ぎの習わしです。「ん」が2つある食材は運気が2倍になるとされ、なんきん（かぼちゃ）、れんこん、にんじん、ぎんなん、きんかん、かんてん、うんどん（うどん）は「冬至の七草」として知られています。また、現在では珍しくなっていますが、「冬至粥」と呼ばれる小豆粥を食べるのも習わしの1つです。小豆の赤色は邪気を祓うとされ、冬至粥を食べて悪い運氣を取り除いて、翌日から良い運氣を呼び込むと言われていました。小豆は栄養価も高く、体力を奪われやすい寒い冬のエネルギー源としても好適です。このように日本には古くからの理に叶った伝統的な習わし、文化、行事が多く存在します。現在は知られていないようなことを子どもたちに伝えていくのも志賀学園の建学の精神にあります。「感性の豊かな日本の心を持った真の国際人の育成」に繋がる部分も多くありますので、是非、保護者の皆様もご家庭でお子さんとの話題の1つとしていただきたいです。

### 「12月の子どもの特性」【仲間意識期】

10月よりお伝えしておりますが、ばら組のお部屋でも子どもたちの育ちが伺える姿が見られていたので紹介したいと思えます。5月の田植え時期に、園舎南側にある田んぼで田植えをしている様子を見て、ばら組さんで興味を持ったことをきっかけに発泡スチロールにミニ田んぼを作ってみんなで収穫を楽しみに稲の生長を見守ってきました。また鳥さんにお米が食べられないようにと手作りの案山子（かかし）を作ったり、ソフトボールを利用してお米のもみずりをしたりと楽しみながら取り組んでいました。入園・進級時から日々の生活で興味を持ったことを子どもたちと一緒に保育の中に繋げていくことで自然と個人の楽しみからお友だち（仲間）と一緒に集団での楽しみを経験することでこの時期の成長が見られるようになってきています。11月の初めに黄色く実った稲を収穫した際に余った藁を利用してばら2組のお部屋では3匹のこぶたに登場する藁の家を子どもたちと一緒に作り、ごっこ遊びを楽しんでいました。その過程で楽しい経験をし、ありのままの自己表現をしている子どもたちの姿から担任の先生も生活発表会の演目として決めたと話していました。

ばら1組さんでも「よーいしょ、よいしょ♪」の音楽に合わせてながらお友だちとリズムよくおおきなかぶに取り組んでいます。4月からの生活の中で今の時期が一番お友だちの存在を認識して歩み寄ろうとする時期にです。そして、12月4日（水）は収穫したお米も使っておにぎり作りをする予定でいます。今から喜ぶ子どもたちの姿が楽しみです。

【田植え体験】



【稲刈り】



【藁の家作り】



【ごっこ遊び】

